

2016 年度秋学期東京学芸大学「日本理解」「多文化共修科目」時間割・授業概要

2016 年 9 月 21 日現在

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
I 8:50- 10:20	多文化共修科目 B 多文化社会とコミュニケーション (岡智之) [N 3 1 3]			多文化共修科目 D 世界の民族と文化 (有澤知乃) [N 3 1 3]	
II 10:30- 12:00				日本理解 B 教育 (遠座知恵) [N 2 0 2]	日本理解 F 社会 (加藤拓) [N 4 0 2]
III 12:50- 14:20					
IV 14:30- 16:00					日本理解 H 芸術 (石井健) [書道演習室:芸術 スポーツ科学系研究 棟 4 号館 2 階]
V 16:10- 17:40					日本理解 D 人文 (千田洋幸) [S306]

* 「多文化共修科目」は、学部の正規生（主に日本人学生）が履修できる CA 科目として同時開講されており、留学生と日本人学生が共に議論しながら、世界の文化や社会の多様性について、学びを深めることを目的としています。

* 「日本理解」は、留学生のみを対象とした科目で、日本の文化や社会について、留学生同士で議論したり、実技や見学などを行ったりしながら、多角的に学ぶことを目的としています。

授業科目名	日本理解B：教育
担当教員	遠座知恵 (えんざ ちえ)
ねらいと目標	歴史的な視点から日本の教育について学び、その特徴に対する理解を深めていきます。
内容	古代から現代までの「学校」に注目しながら、日本の教育の特徴について学んでいきます。日本は古代から海外の影響を受けて発展してきた国であり、教育についてもその例外ではありません。この授業では、それぞれの時代に、海外の影響を受けながら、日本でどのような教育が行われてきたのかを紹介していく予定です。プリントやビデオなど、できるだけわかりやすい資料を使いながら授業を進めていきたいと思ひます。
テキスト	とくに用いません。
参考文献	必要に応じて読みやすい参考文献を紹介したいと考えています。
成績評価法	コメントペーパー（40%）と学期末試験（60%）で評価を行います。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 古代の教育 3. 中世の教育 4. 文字社会の成立（近世） 6. 近世の教育1（手習いの教育） 7. 近世の教育2（学問の教育） 8. 近代教育の理念と構想 9. 西洋式教授法の導入 10. 義務教育制度の成立 11. 中・高等教育の整備と学歴社会の成立 12. 幼児教育制度の成立と幼保二元化問題 13. 教師の自己改革と大正新教育運動 14. 戦時下の教育と戦後教育改革 15. 現代の教育
授業時間外における学習方法	
授業のキーワード	

受講補足（履修制限など）	授業開始時に出席を確認します。
学生へのメッセージ	海外の影響や比較的な視点を交えながら日本の教育をとらえていく授業なので、受講者の皆さんも自国の教育と比べてみてください。

授業科目名	日本理解D：人文
担当教員	千田洋幸 (ちだ ひろゆき)
ねらいと目標	主に 1990 年代以降のアニメを中心とするポップカルチャーを取り上げながら、日本の文化・社会のあり方について考察していきます。
内容	前半は、ここ 20～30 年ほどの定番アニメ作品を取り上げ、その思想的系譜をたどっていきます。後半は、ポップカルチャーについて考える際に欠かせない「オタク」「キャラクター」「腐女子文化」「2.5 次元文化」等について考えます。
テキスト	特に定めませんが、開講前に、『美少女戦士セーラームーン』『新世紀エヴァンゲリオン』『涼宮ハルヒの憂鬱』『魔法少女まどか☆マギカ』『ラブライブ！』等の著名なアニメ作品に多く触れておくと、授業にスムーズに参加できます。
参考文献	授業時に指示します。
成績評価法	平常点 50% 試験 50%
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 1980 年代から 90 年代へ（『機動戦士ガンダム』『美少女戦士セーラームーン』など） 3. 1990 年代アニメの思想(1)（『新世紀エヴァンゲリオン』など） 4. 1990 年代アニメの思想(2)（『機動戦艦ナデシコ』『少女革命ウテナ』など） 5. 2000 年代アニメの思想(1)（『ほしのこえ』など） 6. 2000 年代アニメの思想(2)（『けいおん！』『涼宮ハルヒの憂鬱』など） 7. 2010 年代アニメの展開（『魔法少女まどか☆マギカ』など） 8. 「オタク」という社会現象 9. ボーカロイドとキャラクター概念（初音ミクその他） 10. 美少年の文化（『テニスの王子様』『Free!』その他 BL 作品など） 11. 宮崎駿の世界（『風の谷のナウシカ』『千と千尋の神隠し』など） 12. 災害とポップカルチャー（『DOCUMENTARY of AKB48 Show must go on』『あまちゃん』など） 13. アニメの中のアイドル（『ラブライブ！』など） 14. まとめ：ポップカルチャーと社会との関係

	15. 試験
授業時間外における学習方法	
授業のキーワード	
受講補足（履修制限など）	出欠を確認します。
学生へのメッセージ	

授業科目名	日本理解F：社会
担当教員	加藤 拓 (かとう たく)
ねらいと目標	日本人の消費行動を、日本で最近開業した商業施設や日本市場に進出した海外のチェーン企業を例に説明する。
内容	日本で定番化した商品や、最近開業した商業施設、日本市場に進出した海外のチェーン企業に関する話題を紹介し、日本人の消費行動を独自調査の結果も踏まえて解説する。日本人にもものを買ってもらう方法を少し理解できるかもしれません。受講生の皆さんには、自国の似ている施設や企業の例を紹介していただき、日本の場合との共通点や相違点を発表していただく予定です。
テキスト	とくに定めません。
参考文献	
成績評価法	平常点 50%、発表 50%

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一都三県の地理①（鉄道網） 2. 一都三県の地理②（道路網） 3. 一都三県の地理③（商業地、人口分布） 4. 大型商業施設の地域分布 5. 日本で小売ビジネスが成り立つ立地 6. 海外の小売・サービス企業の進出状況、多店舗化の状況 7. 日本で定着したチェーン企業とその理由 8. 発表① 9. 発表①（つづき） 10. 大型商業施設の勝ち組と負け組① 11. 大型商業施設の勝ち組と負け組② 12. 日本進出チェーンの現状と今後 13. 日本市場で定着する方法（仮説） 14. 発表② 15. 発表②（つづき）まとめ
授業時間外における学習方法	街に行くときに買い物場所である商業施設等に立ち寄り、周囲を観察し、気づいたことをメモすること。
授業のキーワード	日本人の消費行動、商業施設、チェーン企業
受講補足（履修制限など）	
学生へのメッセージ	

授業科目名	日本理解H：芸術
担当教員	石井 健（いしいたけし）
ねらいと目標	この授業科目では、書道を中心とした日本の文字文化について考察していきます。本年度は、毛筆の実技をとりまぜながら、書道や文字に関わる歴史や文化について幅広く学んでいきます。
内容	日本の文字文化の基礎となる中国の書道の歴史を学んだのち、「ひらがな」や「カタカナ」も含め、日本の書道の歴史や文字文化について、筆や墨を使って文字を書く書道実技を中心にしながら勉強していきます。また、書道と文学、書道と美術などのかかわりについても考察します。毛筆の道具等は各自で購入してもらいます。
テキスト	授業中に指示します。必要に応じ、資料を配布します。
参考文献	『書の古典と理論』（光村出版） 『書の見方 日本の美と心を読む』（角川学芸出版）

	『書学挙要一書の歴史と文化』（藝文書院）
成績評価法	平常点 50% 提出物 30% レポート 20%
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 東アジア文化圏の文字文化と書 3 書の道具の歴史と製法①（筆） 4 書の道具の歴史と製法②（墨） 5 書の道具の歴史と製法③（紙） 6 書の道具の歴史と製法④（硯） 7 書きながら学ぶ書の歴史 中国① 8 書きながら学ぶ書の歴史 中国② 9 書きながら学ぶ書の歴史 中国③ 10 書きながら学ぶ書の歴史 日本① 11 書きながら学ぶ書の歴史 日本② 12 書きながら学ぶ書の歴史 日本③ 13 書と日本文学 14 書と日本美術 15 まとめ
授業時間外における学習方法	博物館や美術館に展示されている書道の作品をできるだけ多く鑑賞するようにしてください。また、日常生活のなかで見かける「手書き文字」や「筆文字」に注目してみてください。
授業のキーワード	書道 文字文化 毛筆
受講補足（履修制限など）	
学生へのメッセージ	

授業科目名	多文化共修科目 B： 多文化社会とコミュニケーション
担当教員	岡 智之（おか ともゆき）
ねらいと目標	多文化共修科目は、日本人学生と留学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ学生が、授業という場でお互いに学び交流しながら、新しい気づきを生み出す場です。多文化共修科目 B「多文化社会とコミュニケーション」では、多文化社会に関する理解を深めるとともに、多様な文化を持つ学生の議論や協働学習を通して、多種多様な人々と対等にコミュニケーションを取ることができる能力を高めることを目的とします。
内容	前半は多文化社会に関わるトピック（在日外国人問題、沖縄問題、グローバリゼーションと言語教育、視覚障がい者ゲストトークなど）に関して、基本的な知識を学び、ディスカッションを通して深めます。後半は、グループごとに多文化社会の問題解決を目指すプロジェクトを企画し、発表し、報告書としてまとめます。課外活動として、朝鮮大学の訪問(11/13)、ブラジル人学校生徒との交流、ヒューマンライブラリの参加(12/4)などを考えています。

テキスト	特に定めません。
参考文献	松尾知明 (2011)『多文化共生のためのテキストブック』明石書店など。適宜、授業時に指示します。
成績評価法	平常点 30% (毎回コメント用紙提出)、発表 30%、最終レポート 30%、課外活動 10%+ α 、最終レポートは A4 用紙 3 枚程度、締め切りは 2 月 13 日 (月) 担当者にメール添付で送ること。
授業スケジュール	1. オリエンテーション、2. となりに生きる外国人—多文化共生って何?、3. 在日コリアンについて考える、4. 難民問題を知る、5. 沖縄から平和を考える、6. グローバリゼーションって何?、7. グローバル化と言語教育、8. ヒューマンライブラリ振り返り、9. 見えない世界のコミュニケーション (ゲストトーク)、10. 11 プロジェクト構想、12, 13, 14. 最終発表、15. 振り返りと全体まとめ
授業時間外における学習方法	課外活動の参加と感想文の提出はセットです。後半のプロジェクト構想と発表に向け、授業外でグループが集まって、調査、準備が必要になります。
授業のキーワード	多文化社会、異文化理解、コミュニケーション、協働学習
受講補足 (履修制限など)	受講者が 30 人を超える場合は、受講制限を行います。留学生は、プレースメントテストで、L1 と L2 の学生のみを対象とします。
学生へのメッセージ	日本人学生と交流したい留学生、留学生と交流したい日本人学生の積極的な参加を求めます。課外活動や国際交流活動にも積極的に参加しましょう。朝早いですが、遅刻しないこと。

授業科目名	多文化教修科目 D：世界の民族と文化
担当教員	有澤知乃 (ありさわ しの)
ねらいと目標	様々な国や地域から来た学生が、一緒に調べたり議論したりすることを通して、世界の民族文化について多様な視点から考察できる力を身につける。
内容	今年度は音楽をテーマにします。音楽から民族の歴史を学び、現代社会における人々の生活や習慣、アイデンティティの問題などについても議論していきます。結婚式の音楽、宗教の音楽、子どもの歌など、グループごとにトピックを決めて、異なる国や地域の事例をあげて比較します。その中で、音楽の要素や構造だけでなく、その音楽を継承している社会や人々についても視野を広げていきます。なお、グループワークでは、舞踊や演劇など、音楽以外の芸能を事例としてもかまいません。

テキスト	特に定めません。
参考文献	授業の進捗状況に応じて紹介します。
成績評価法	(1) 平常点 30% (コメントフォーム 3 点×10 回) (2) 発表 30% (グループワークで自身が担当した部分) (3) レポート 40% (プレゼンテーションでの質疑応答をふまえて、より内容を深めたものを作成する)
授業スケジュール	1. 概要 2. 事例 1 : 楽器からたどる民族文化 3. 事例 2 : 歌からたどる民族文化 4. 事例 3 : 民族音楽のジェンダー的側面 5. 事例 4 : 民族音楽の伝承と創造 6. グループワーク 1 : 課題を見つける 7. グループワーク 2 : 方法を考える 8. 中間報告 9. グループワーク 3 : 個別事例の報告と比較 10. グループワーク 4 : 事例と考察をまとめる 11. 発表 1 12. 発表 2 13. 発表 3 14. 発表 4 15. まとめ
授業時間外における学習方法	グループワークのトピックで自分が担当することになった国や地域の事例を調べ、グループメンバーと発表の準備を行なってください。
授業のキーワード	民族、芸能
受講補足 (履修制限など)	誰もが発言・発表できるように、受講者が 30 人を超える場合は、制限を行ないません。留学生は、日本語の上級者 (留学生センターのプレースメントテストでレベル 1 または 2) のみ受講可とします。
学生へのメッセージ	様々なバックグラウンドの学生と議論するのは、最初のうちは難しいかもしれませんが、苦勞が多い分、得るものも多いと思いますので、積極的に参加してください。音楽の専門知識は必要ありません。